

種 名 アカメガシワ雄株

万葉時代の呼名 久木



詠人山部赤人

万葉集卷六 九二五

ぬまたげの夜の更けゆけば久木生ふる
清き川原に千鳥しば鳴く

【現代訳】

夜が更けてきました。久木の生い茂っているきれいな川原で千鳥がしきりに鳴いています…

【アカメガシワの解説】 トウダイグサ科アカメガシワ属の落葉高木

新芽が鮮紅色であること、そして葉が柏のように大きくなることから命名された。本州・四国・九州・東南アジアの山野に自生し、日本では二次林に多く、空き地などによく生えてくる、典型的な先駆植物である。雌雄異株で、樹高は5～10mに達する。初夏、白色の花を穂状につける。種子は高温にさらされると発芽しやすくなり、伐採や森林火災により森林が破壊されると一気に繁殖する。樹皮は日本薬局方に記載の生薬で、これを煎じたものは胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃酸過多症に効果があるとされる。